

臨床・障害4 (916~922)

座長 蓑毛良助・新谷 守

- 916 文章題解決における認知的枠組の役割
愛媛大学 蓑毛良助
- 917 音響, 色彩, 発声に関する研究(Ⅱ)
長崎大学 重永幸男
- 918 前言語期の高度難聴幼児の母子間の交信関係について
国立身体障害者リハビリテーションセンター
○中村公枝
- 919 聴覚障害児の知覚判断における眼球運動
名古屋大学 吉田直子
- 920 聴覚障害児の系列視記憶に及ぼすストラテジー教示の影響
筑波大学 都築繁幸
- 921 オプタコン (Optacon) による触読についての研究
(4) — オプタコン・トレーニング・マニュアル(教育漢字(学年別・縦書き)用)の作製—
東北大学 新谷 守
- 922 弱視者の視標追跡能力
筑波大学 中田英雄

討論の概要

916の発表に対して, 都築(筑波大)から認知的枠組の理論的背景は何か, および, 聴覚障害児特有な認知的枠組とは何かという質問がなされた。発表者は, 物語の読解における認知的枠組について研究している Bartlett (1932), Branford & Maccarrell (1974), Franks (1974) の考え方を参照していること, および, 聴覚障害児は認知的枠組を反映した視覚的表現で, 線分図などの相対的尺度よりも具体的な図を洗練させる方向で活用しているが, 今後, 認知発達段階などの指標を取り入れながら検討しなければならないと答えた。

917の発表に対して, 新谷(東北大)から, 標準的パターンがどこまで作られているかという質問がなされた。発表者は, 事例研究的結果であるので, 一般的標準パターンを作るまでに実験が進んでいない, 今後の研究にまちたいと答えた。

918の発表に対して, 中村(国立身体障害者リハビリテーションセンター)から, 母親と子どもの間, および, 先生と子どもの間におけるコミュニケーションのちがいは, 母親や先生が持っている構えのちがいと関係しているのではないかという質問がなされた。発表者は,

母親と子どもとの関係と先生と子どもとの関係のちがいが, および, 特殊な場面における母親側の心理機制等が, コミュニケーション関係に影響を与えていることを否めない。しかし, 母親側が要求的, 教示的, かつ, 主導的であるのは, それ以上に, 言語学習をはかりたいという強い親の意図やそれまでに母親との間でどう関係が成立してきたかということの影響が大きいととらえていると答えた。

919の発表に対して, 重永(長崎大)から, この装置のモータードライブ付カメラのモータードライブはいかなるものか, また, どの程度の速さでフィルムを流すのかという質問がなされた。発表者は, モータードライブ付カメラは改良型であって, 1cm/1sec でスライドするものであると答えた。

920の発表に対して, 蓑毛(愛媛大)から, 図2の結果から考えるとリストを構成する要因が異なる時よりも同じである時のほうが, より再生量が多いということは, 言えないのではないか, 聴覚障害児が問題解決時に, 有効な手がかりを自発的に使用できることが重要と考えるがどうかという質問がなされた。発表者は, 結果をもう1度検討しなすこと, 今後, 指摘された方向で形成実験, 指導論へと発展させたいと答えた。

922の発表に対して, 前川(筑波大)から, 振幅の減少, 網膜レベルの問題だけでなく, 皮質下のレベルでのコントロールとの関連が滑導性運動の場合, 指摘されているが, そうしたシステムとの関連をどう考えているのかという質問がなされた。発表者は, 視標を追跡する場合, 網膜疾患があると視標を中心窩にとらえることが困難になることが容易に推察されるが, 刺激の知覚という側面ばかりでなく, 刺激を受容して外眼筋をコントロールする運動系の側面もあわせて考えることが必要であると思うと答えた。

(蓑毛良助・新谷 守)